

# 岩崎先生 おすすめ本

## 『絵地図の世界像』

応地 利明／著 岩波書店 (1996)

中世の日本図に描かれた架空の異域、「羅刹国」と「雁道」。信仰世界の描出として繰り返し作られた仏教的世界図。前近代を特徴づけるそうした異域の成立の謎や変容、消失過程をさまざまな絵地図のなかに読み解く。さらにはその読解をもとに、仏教の受容など、中世からの日本人の世界認識の変遷を探る一冊。

## 『地図出版の四百年』

京都大学大学院文学研究科地理学教室／編  
京都大学総合博物館／編 ナカニシヤ出版 (2007)

400 年前に日本で地図の出版が始まった。分かりやすさと奇抜さ、そして手にとってもらうための仕掛け。日本最古の刊行都市図から近代の地形図まで、地図出版の先人たちの創意工夫をたどるとともに、400 年間の日本の地図の進化をたどる。

## 『大地の肖像』

藤井 讓治・杉山 正明・金田 章裕／編  
京都大学学術出版会 (2007)

絵図や地図には古代の知識や価値観、中世の思索や世界観、そして近世の広がりゆく知見や世界像などが多元の切り口をもって投影され、「大地の肖像」として巨細に具象化されている。本書では、その肖像を、歴史学など関連諸学からのアプローチを取り入れて多面的に考究する。

※すべて京都府立図書館で所蔵しています。

